

## 平成26年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年6月14日

上場取引所 大

上場会社名 ミネルヴァ・ホールディングス株式会社  
 コード番号 3090 URL <http://www.minerva-hd.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 中島 成浩  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 藤原 秀樹 TEL 06 (6910) 0031  
 四半期報告書提出予定日 平成25年6月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年1月期第1四半期の連結業績（平成25年2月1日～平成25年4月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年1月期第1四半期	1,174	4.7	△17	—	△29	—	△35	—
25年1月期第1四半期	1,121	0.8	△56	—	△61	—	△69	—

(注) 包括利益 26年1月期第1四半期 △20百万円 (—%) 25年1月期第1四半期 △56百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年1月期第1四半期	△2,484.13	—
25年1月期第1四半期	△4,918.31	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年1月期第1四半期	1,598	630	35.6
25年1月期	1,307	651	45.4

(参考) 自己資本 26年1月期第1四半期 568百万円 25年1月期 593百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年1月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年1月期	—	—	—	—	—
26年1月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年1月期の連結業績予想（平成25年2月1日～平成26年1月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,775	3.3	6	—	2	—	0	—	56.27
通期	5,478	5.2	12	—	6	—	1	—	70.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー 社（社名）、除外 ー 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年1月期1Q	14,206株	25年1月期	14,206株
② 期末自己株式数	26年1月期1Q	ー株	25年1月期	ー株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年1月期1Q	14,206株	25年1月期1Q	14,206株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通しの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信（添付資料）P.2「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	3
4. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(5) セグメント情報等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政権交代による円高是正、経済政策の期待感による株価の急騰など、景気回復の兆しがみられたものの、海外景気の減速などにより、先行き不透明な状況で推移いたしました。又、当社Eコマース市場においては、市場は伸長しているものの、スマートフォンやタブレット端末の急速な普及により、価格競争、サービス競争が激しさを増しております。

このような中、当社グループでは、黒字転換を喫緊の課題としてアウトドア、スポーツ、フィッシングに特化し、各カテゴリー別のマーケティング戦略にもとづく品揃えの強化、お薦め商品の情報提供など、競争力、収益力強化への取り組みを行い、同時に当社が優先的販売権をもつ、オキシレングループの保有するパッションブランド商品の販売促進に努めました。

また、自社物流への切り替えを行い、在庫回転率を向上させるため徹底した在庫管理を行うなど、業務の効率化を図り、利益確保に注力いたしました。

以上の結果、黒字化に向けて着実に体質改善が図れているものの、為替相場の変動による為替差損、中国において立ち上げ過程にある持分法適用関連子会社上海拿趣然商貿有限公司の投資損失等の営業外費用発生により、当第1四半期連結累計期間における連結業績は、売上高1,174,287千円（前年同期比4.7%増）、営業損失は17,811千円（前年同期は、56,766千円の営業損失）、経常損失は29,717千円（前年同期は、61,903千円の経常損失）、四半期純損失は35,289千円（前年同期は、69,869千円の四半期純損失）となりました。

なお、セグメント別の状況は次のとおりであります。

#### ① Eコマース事業

Eコマース事業においては、アウトドア、スポーツ、フィッシングに特化していることから、季節的要因による需要低下の影響を受ける期間ではあるものの、専門マーチャンドライザーが季節や対象者別のお薦め商品を、当社の強みであるSNSを利用して効果的に訴求し、既存の顧客はもとより新規顧客の開拓とシェアの維持拡大に注力いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるEコマース事業の売上高は、1,071,450千円（前年同期比4.6%増）となりました。

#### ② ECソリューション事業

ECソリューション事業においては、当社連結子会社ナチュラルム・イーコマース株式会社において培ったノウハウ、経験等を活かし「ジェネシスECセンター」として、Eコマース事業者とのバックヤード業務のシェアを通じた生産性向上やコスト削減を図ることで、競合他社との差別化に繋がる良質なサービス提供の実現に努めております。これらのサービスが既存顧客の売上にも貢献し、また同時に新規顧客の獲得にもつながりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるECソリューション事業の売上高は、102,836千円（前年同期比5.7%増）となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比291,117千円増加し、1,598,171千円となりました。これは主に、現金及び預金、売掛金の増加によるものであります。

負債は、前連結会計年度末比311,692千円増加し、967,401千円となりました。これは主に、買掛金の増加によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末比20,575千円減少し、630,769千円となりました。これは為替換算調整勘定、少数株主持分が増加したものの、四半期純損失35,289千円を計上したためであります。

### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月15日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更）

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成25年2月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

## 3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、当第1四半期連結累計期間において、17,811千円の営業損失、29,717千円の経常損失、35,289千円の四半期純損失を計上しております。このような状況により、前連結会計年度に引き続き、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況（「重要事象等」）が存在しております。

当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策といたしましては、以下のとおりであります。

### ① オキシレングループとの業務及び資本提携

当社は、平成23年6月14日にオキシレングループと業務資本提携に関する契約を締結し、オキシレングループが取扱うパッションブランド商品の日本国内における優先的販売権を取得するとともに、平成23年7月にオキシレングループ傘下の投資会社「ソパージャ エス ピー アール エル」を引受先とする新株発行増資により309,961千円の資金調達を行いました。優先的販売権を取得したこれら商品は、当社取扱いの他商品と比較して売上総利益率が高く、同社商品のラインナップを揃えて販売促進することで、当社の売上高及び利益率向上に貢献できるものと考えております。当社は、今後、かかる優先的販売権を基盤とするオキシレングループとの業務提携の更なる強化及び必要に応じて支援を依頼することによって、当社の財務基盤を安定させ、今後の成長及び企業価値向上を図ります。

### ② 経費の抑制

在庫水準や仕入量の見直し等を行うとともに、物流の内製化を推し進め、当社グループの売上高に占める物流比率の改善を図っております。また、今後も人件費の抑制をはじめとする、諸経費全般に亘る削減を実施してまいります。

なお、平成25年3月14日開催の取締役会において、人件費の削減を中心とする35,088千円の経費削減を決議いたしました。

### ③ 資金繰りについて

上記施策が発現するに至るまでのより安定的な資金運営のために、平成22年10月29日に金融機関より返済期日を平成25年10月31日とする150,000千円の融資を受けております。その後約定通りの返済を行っております。

（平成25年1月末現在残高25,020千円）

また、必要に応じて金融機関と継続して融資交渉をおこなってまいります。

以上により、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	284,463	355,445
売掛金	243,054	430,099
有価証券	43,030	15,160
商品及び製品	461,472	536,409
原材料及び貯蔵品	1,622	1,618
その他	38,370	34,145
貸倒引当金	△165	△58
流動資産合計	1,071,848	1,372,820
固定資産		
有形固定資産		
有形固定資産合計	38,903	35,358
無形固定資産		
無形固定資産合計	65,278	62,725
投資その他の資産		
投資有価証券	64,843	61,887
その他	66,180	65,378
投資その他の資産合計	131,024	127,266
固定資産合計	235,205	225,350
資産合計	1,307,053	1,598,171
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	196,193	424,995
短期借入金	190,000	280,000
1年内返済予定の長期借入金	53,802	41,304
未払法人税等	7,209	8,110
賞与引当金	6,448	8,627
ポイント引当金	41,928	41,924
その他	82,243	95,543
流動負債合計	577,825	900,505
固定負債		
長期借入金	48,768	44,697
繰延税金負債	6,658	7,010
資産除去債務	3,184	—
その他	19,272	15,188
固定負債合計	77,883	66,896
負債合計	655,709	967,401

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	757,718	757,718
利益剰余金	△177,988	△213,278
株主資本合計	579,729	544,440
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	273	—
為替換算調整勘定	13,006	24,368
その他の包括利益累計額合計	13,279	24,368
少数株主持分	58,335	61,960
純資産合計	651,344	630,769
負債純資産合計	1,307,053	1,598,171

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年2月1日 至 平成24年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年2月1日 至 平成25年4月30日)
売上高	1,121,222	1,174,287
売上原価	835,708	849,983
売上総利益	285,514	324,303
販売費及び一般管理費	342,280	342,114
営業損失(△)	△56,766	△17,811
営業外収益		
受取利息	70	55
補助金収入	3,685	2,061
たな卸資産処分益	—	2,000
その他	146	794
営業外収益合計	3,902	4,912
営業外費用		
支払利息	1,424	1,226
持分法による投資損失	—	8,291
為替差損	7,489	7,070
その他	125	230
営業外費用合計	9,039	16,818
経常損失(△)	△61,903	△29,717
特別損失		
本社移転費用	3,257	—
店舗閉鎖損失	—	3,698
特別損失合計	3,257	3,698
税金等調整前四半期純損失(△)	△65,161	△33,415
法人税等	2,627	3,229
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△67,789	△36,644
少数株主利益又は少数株主損失(△)	2,080	△1,354
四半期純損失(△)	△69,869	△35,289

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年4月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年4月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△67,789	△36,644
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△513
為替換算調整勘定	10,971	11,759
持分法適用会社に対する持分相当額	—	4,546
その他の包括利益合計	10,971	15,792
四半期包括利益	△56,817	△20,852
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△61,526	△24,441
少数株主に係る四半期包括利益	4,708	3,589

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年2月1日至平成24年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	Eコマース事業	ECソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,023,888	97,333	1,121,222	—	1,121,222
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	124,474	124,474	△124,474	—
計	1,023,888	221,808	1,245,697	△124,474	1,121,222
セグメント利益又は損 失(△)	△823	11,951	11,128	△67,895	△56,766

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用67,895千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

本社移転の決定に伴い、報告セグメントに含まれない全社資産の減損損失を認識するに至りました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては2,507千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

Eコマース事業セグメントの主要製品のうち、ホビー商品については、平成24年1月末をもって撤退いたしました。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年2月1日至平成25年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	Eコマース事業	ECソリューション事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,071,450	102,836	1,174,287	—	1,174,287
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	128,489	128,489	△128,489	—
計	1,071,450	231,326	1,302,776	△128,489	1,174,287
セグメント利益又は損 失(△)	45,636	△5,990	39,646	△57,457	△17,811

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用57,457千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。